

報告書抄録

ふりがな	ろくたんだいせき							
書名	六反田遺跡 I							
シリーズ名	中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	3-1							
編著者名	堀 真人							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課				公益財団法人滋賀県文化財保護協会			
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号				滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号			
発行年月日	平成25年(2013年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ろくたんだいせき 六反田遺跡	ひこねし 彦根市 みやたちょう 宮田町	25202	202-079	136度27分81秒	35度28分56秒	5,587㎡	20070618 } 20080221	中山間地域総合整備事業(鳥居本西部地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
六反田遺跡	集落	縄文時代	埋設土器・ピット・流路	縄文土器・石器	水銀朱付着磨石			
	集落	飛鳥時代	流路・掘立柱建物・土坑	須恵器・土師器・土馬	護岸遺構			
	集落	奈良時代	流路・掘立柱建物・ピット	須恵器・土師器・木簡・人形代・三彩陶器	荷札木簡・文書木簡・習書木簡			
	集落	平安時代	掘立柱建物	緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器	大型建物			
要約	<p>縄文時代中期末から後期前葉の遺構および古代の遺構・遺物が検出されている。その中で縄文時代の遺物の中には水銀朱が付着した磨石が出土している。水銀朱の流通を考える上で重要な資料となる。古代は大きく7世紀後半、8世紀中頃、10世紀後半と3時期に分けられる。</p> <p>うち7世紀後半から8世紀中頃は、主となる河道を変えながらも船着き場を整えた陸路と水路の結節点に位置する流通拠点施設であったと評価できる。7世紀後半は「絡め粗朶」を使った護岸遺構が検出されている。8世紀中頃の流路からは木簡や墨書土器等が出土しており、それらから坂田郡の出先機関で郷長が管理していた可能性が指摘できる。10世紀後半には現在残る条里に主軸を合わせた二面庇の大型建物が出現する。荘園に関わる施設の可能性がある。</p> <p>遺跡が位置する鳥居本の地域は、畿内と東国の境で、陸路と水路が交わる地域であった。具体的には東山道(陸路)と矢倉川・入江内湖・琵琶湖(水路)である。六反田遺跡は、地域の特色を体現している遺跡といえる。</p>							